

会長挨拶

去る5月4日、5日、東北大学にて第96回全国大会が開催されました。久しぶりの完全対面方式ということで、例年の大会にも増して久しぶりの再会を喜ぶ参加者の方々の笑顔が目についたように思います。懇親会も盛況で、残念ながら受付を途中で締め切らざるをえないほどの人気でした。

これもひとえに東北大学の開催校委員長・大貫隆史先生をはじめとした開催校委員の方々、アルバイトの学生さん、東北支部長の福士航先生を中心とした支部委員の方々、大会準備委員長の松本朗先生を中心とした大会準備委員の方々、田村斉敏事務局長を中心とした事務局スタッフと事務職員のみなさまのご尽力の賜です。あらためて感謝申し上げます。

副会長の竹村はるみ先生の調査によれば、当学会の全国大会は当初は10月開催が慣例でした。しかし、1936年の第8回大会のときにはじめて5月に開催され、そのあとまた10月に戻るということがありました。なぜ、このような変則的なことが起きたのでしょうか。

ここからは竹村副会長の推理に依るのですが、実ははじめての5月開催は、今回と同じく仙台市で行われています。開催校は宮城県立女子専門学校。この学校は公立校としては福岡、大阪に次ぐ三番目の設立で、由緒ある学校でしたが、戦後の学制改革で東北大学に吸収されま

す。そういう意味では1936年の大会も、今回の東北大学とご縁の深い場での開催だったと言えるでしょう。

話をもとに戻しましょう。なぜ、この記念すべき初の仙台大会が5月開催だったのか。この大会の最大の意義は、それまでは東京か京都の開催だった全国大会が、はじめて別の地で開催されたことにあります。竹村先生はそこに謎を解く鍵があると考えます。おそらく仙台の地ということで、10月だとやや寒いかもしれない、せっかく涼しい仙台でやるのだから思い切って5月開催とし、この地の自然を最大限満喫しようとの狙いがあったのではないかと。

なるほど！と私も思いました。実際、この大会では、懇親会のかわりに「園遊会」なる優雅な催しが企画されています。残念ながら園遊会開催の二日目は天気がよくなかったようですが、いかにも英文学会らしい洒落た試みで、こうした気概だけは忘れないでいたいものだ、竹村先生が推理を展開された記事を読みながら私も思いました。全国大会の歴史をめぐるこの考察は「週刊読書人」2024年5月3日(4月26日合併)号の6・7面に掲載されています。ウェブでも読めますのでよかったらご参照ください (<https://dokushojin.net/news/525/>)。

この間、英文学会の本部でも事務的な動きがありました。まず2年ほど前から時間をかけて議論したハラスメント防止にかかわるガイドラインが、関係者のご尽力もあり無事制定されま

した。学会 HP の情報公開の頁に掲載されていますのでご参照ください。ガイドラインの策定にあたっては大貫隆史先生を中心としたワーキンググループの答申をたたき台にして起草委員会の先生により案の骨子を作り、さらに理事、評議員と起草委員とで組織された合同協議会で案を練って最終的な形にしました。この過程では必要に応じてさまざまな別機関の規定も参照することで、普遍性の高いガイドラインが出来たかと思います。学問の場ではときに立場の違いを超えて熱い討議をかわすことも必要ですので、本ガイドラインにもあるように個人として相互に敬意を払い合いながら、自由闊達な学術教育活動を萎縮することなく行えるような場が生まれればと願っております。

今後、支部から相談員等をご推薦いただいた上で相談窓口を設置し、ハラスメントの防止に努めて参りたいと思います。引き続きみなさまのご協力をお願いいたします。

(阿部公彦)

理事会および評議員会議事録から

日本英文学会事務局を会議本部とするオンライン会議にて、2024年5月25日に理事会および評議員会が開催されました。主要な議案は以下の通りです。

1. 2023年度事業報告
2. 2023年度編集委員会活動報告
3. 2023年度大会準備委員会活動報告
4. 2023年度決算報告
5. 2024年度予算確認
6. 2025年度大会開催校の決定
7. 2026年度大会開催支部の確認
8. その他

「8. その他」の主な議案は以下の通りです。

- (1) 第96回全国大会 経費の追加拠出について（4月臨時理事会メール審議事項）——第96回全国大会の開催校（東北大学）より、キャンパスの清掃費その他の増額にともない、追加での経費拠出（500,000円）に関わる依頼があり、承認されました。
- (2) 海外研究者招聘後援事業について——今年度前半分（2024年4月1日申請締切）は国際アイルランド文学協会日本支部から、2024年国際大会に関わる申請があり、理事会での審議の上、規程にしたがい後援することが決定いたしました。
- (3) ハラスメント防止ガイドラインについて——2024年初頭から数回にわたって理事、評議員、ハラスメント防止ガイドライン起草委員による合同協議会を開いて審議を重ね、ガイドラインを策定いたしました。

*なお上記の事業報告、決算報告、予算、海外研究者招聘後援事業に係る規程やハラスメント防止ガイドライン等は、すべて学会HP「情報公開」欄にて詳細をご覧いただけるようになっています。

大会準備委員会からのお知らせ

◎委員の交代

本年7月1日をもって松本朗、田代尚路、菅野素子、上野葉子、久米祐介、那須雅子の6氏が任期満了により退任しました。後任には、下楠昌哉（同志社大学）、木谷巖（帝京大学）、河原真也（西南学院大学）、高橋綾子（兵庫県立大学）、松元洋介（中京大学）、原口治（福井工業高等専門学校）の6氏が選出されました（任期は各委員とも3年）。委員長は小笠原亜衣氏、副委員長は小宮真樹子氏です。

◎第96回大会の『大会 Proceedings』について

第78回大会から刊行がはじまった『大会 Proceedings』ですが、2019年度から冊子体での発行を廃止し、ウェブでのみ公開する電子版（PDF版）へと移行いたしました。第96回大会に関しましては、研究発表49件（招待発表8件を含む）中24件（49%）、シンポジウム発表49件中16件（33%）、総発表数98件中40件（41%）の論文をお寄せいただきました。なお、『大会 Proceedings』に掲載される論文は、大会発表の長めの要約という性格のもので、それを大幅に修正して、別稿として『英文学研究』に投稿もしくは新人賞に応募することが認められています。

また、『大会 Proceedings』の電子版（PDF版）への移行に伴い『支部大会 Proceedings』も、各支部ウェブサイトで公開される電子版に移行いたしました。詳細は各支部の担当者にお問い合わせください。

◎第96回大会の開催形態およびアンケートについて

第96回大会は、対面形式での開催となりました。会員外の方を含め、2日間とも非常に多くの方にご参加いただきました。皆様には心より御礼申し上げます。5月4日から5月5日にかけて Google Form および紙媒体を用いて実施したアンケートには26件の回答があり、開催校のご尽力に感謝する声が多く寄せられました。

◎第97回大会の開催日・開催校等

時 2025年5月24日（土）、25日（日）
所 東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）
開催校委員・支部委員は以下の通りです（敬

称略）。東京大学の先生方には大変なお仕事をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。また全国大会担当支部である関東支部の方々にも心より御礼申し上げます。大会準備委員会としても、できるかぎりのバックアップを行いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

開催校委員 後藤和彦（委員長）、新井潤美、阿部公彦、バーナビー・ラルフ、武田将明、藤井光、与良美紗子

支部委員 佐藤和哉（委員長・日本女子大学）、石湖理恵子（慶應義塾大学）、小野瀬宗一郎（日本女子大学）、徳永聡子（慶應義塾大学）、塚田雄一（成蹊大学）、渡辺愛子（早稲田大学）

◎第97回大会のシンポジウム企画の内定

第97回大会で行われるシンポジウムの企画が下記のように内定しました（敬称略。タイトルの変更の可能性あり）。第1～6部門は大会第1日（5月24日）、第7～12部門は第2日（同25日）にそれぞれ開催される予定です。

第1部門「翻訳・翻案・捏造の美学——長い18世紀における公共圏の形成（仮）」

司会・講師 川田 潤（福島大学教授）
講師 大久保友博（一橋大学講師）
講師 高森 暁子（筑紫女学園大学准教授）
講師 原田 範行（慶應義塾大学教授）

第2部門「デジタル・ヒューマニティーズの発展可能性——英文学研究における現在地」

司会・講師 橋本 健広（中央大学教授）

講師 田畑 智司 (大阪大学教授)
講師 船田佐央子 (福岡大学講師)
講師 鎌田 明子 (東京農業大学教授)

第3部門「推理と小説——シャーロック・ホームズが生まれるまで」

司会・講師 玉井 史絵 (同志社大学教授)
講師 三馬 志伸 (玉川大学元教授)
講師 橋野 朋子 (関西外国語大学准教授)
講師 宮崎かすみ (和光大学教授)

第4部門「アイルランド島の現代詩——新しい天候を告げる詩人たち」

司会・講師 虎岩 直子 (明治大学教授)
講師 辻 昌宏 (明治大学教授)
講師 高岸 冬詩 (東京都立大学教授)
講師 西谷茉莉子 (京都府立大学准教授)

第5部門「知恵と助言の文学——中世後期イングランドとイベリアからの視点」

司会・講師 小林 宜子 (東京大学教授)
講師 工藤 義信 (石川県立看護大学専任講師)
講師 杉藤 久志 (日本大学准教授)
講師 瀧本佳容子 (慶應義塾大学教授)

第6部門「移動・省略現象から見るインターフェイス条件 (仮)」

司会・講師 中村 太一 (東北大学准教授)
講師 宮本 陽一 (大阪大学教授)
講師 小田 博宗 (東京大学講師)
講師 辰己 雄太 (明海大学講師)
講師 後藤 亘 (東洋大学教授)
講師 前田 雅子 (九州大学准教授)

第7部門「抵抗するナラティブ——アメリカ文学における抵抗の所作と語りの可能

性」

司会・講師 牧野 理英 (日本大学教授)
講師 有光 道生 (慶應義塾大学教授)
講師 山本 裕子 (千葉大学准教授)
講師 松永 京子 (広島大学准教授)

第8部門「モダニズムの多面性 (仮)」

司会・講師 富山 英俊 (明治学院大学名誉教授)
講師 渡部 桃子 (東京都立大学名誉教授)
講師 宮本 文 (専修大学教授)
講師 古村 敏明 (明治学院大学教授)

第9部門「十九世紀アメリカ文学・文化と中東」

司会・講師 佐藤 光重 (慶應義塾大学教授)
講師 石川まりあ (立命館大学准教授)
講師 小宮山真美子 (長野工業高等専門学校教授)
講師 田ノ口正悟 (早稲田大学准教授)

第10部門「文化化研究の新たな展開 (仮)」

司会・講師 保坂 道雄 (日本大学教授)
講師 大澤ふよう (国際日本学研究所研究員)
講師 前田 満 (愛知学院大学教授)
講師 久米 祐介 (名城大学准教授)

第11部門「規範と標準の言語学 (仮)」

司会・講師 吉川 正人 (群馬大学准教授)
講師 Ash Leigh Spreadbury (信州大学助教)
講師 北澤 茉奈 (杉野服飾大学助教)
講師 尾崎 (和賀) 萌子
(慶應義塾大学大学院大学院生)

第12部門「『英語文学』を教えること——多様性と代表性の間で」

司会 伊澤 高志 (立正大学准教授)
講師 芦田川祐子 (文教大学教授)

講師 生駒 久美 (東京都立大学准教授)
講師 高橋 愛 (大阪公立大学教授)
講師 土屋 結城 (実践女子大学教授)

参加することはできませんのでご注意ください。寄せられたアイデアはデータベース化し、大会準備委員がシンポジウムを企画立案する際の参考資料として活用します。

◎第97回大会招待発表

第97回大会の招待発表講師は次の各氏に内定しました(敬称略。50音順)。

石黒 太郎 (明治大学教授)
金澤 淳子 (東京理科大学准教授)
吉川 信 (大妻女子大学教授)
栗山 智成 (京都大学教授)
島 越郎 (東北大学教授)
鈴木理恵子 (早稲田大学教授)
中西佳世子 (京都産業大学教授)
服部 典之 (関西外国語大学教授)

◎第97回大会の特別企画

第97回大会2日目(5月25日[日])の午後には、大会準備委員会企画の特別講演として、高山宏氏にご講演いただく予定です。詳細は来春発行の『第97回大会資料』および学会HPに掲載いたします。どうぞご期待ください。

◎第97回大会研究発表の募集

第97回全国大会の研究発表を募集しております。学会のHP (<https://www.elsj.org>) 上でご確認のうえ、奮ってご応募ください。サイト上のフォーマットを利用して、ウェブから直接応募することが可能ですので、どうぞご利用ください。応募の締め切りは11月1日(必着)です。

◎シンポジウムのアイデア募集について

シンポジウムのテーマに関する提言は随時受け付けておりますので、事務局(etaikai@elsj.org)までお寄せください。ただし、提案者は

◎大会ワークショップについて

第86回大会より導入されたワークショップに応募が寄せられ、第97回大会では下記の企画が採択されました。

「More thoughts on discourse-pragmatic markers in the history of English」

司会・講師 柴崎 礼士郎 (明治大学教授)

講師 Laurel J. Brinton

(プリティッシュコロロンビア大学
名誉教授)

講師 岩井 恵利奈 (信州大学助教)

ワークショップの応募要領は学会HP (<https://www.elsj.org>) に掲載しておりますので、奮ってご応募ください。第98回大会(2026年開催)ワークショップの応募締め切りは、2025年4月末日です。

編集委員会からのお知らせ

◎投稿状況

『英文学研究』は、和文号(12月刊行)、英文号(3月刊行)の年各1冊という刊行形態となっており、これに応じてそれぞれ投稿締切が設定されています。昨年9月1日締切の英文号には18本の投稿論文が寄せられました。また、本年4月1日締切の和文号には12本の投稿論文が寄せられました。

◎第47回新人賞応募状況

第47回新人賞論文の応募受付は、去る4月30日をもって締切となりました。応募論文総

数は7篇（英文学3篇、米文学3篇、英語学1篇）です。応募者のみなさまには心より感謝申し上げます。

今年度は残念ながら第一次選考を通過した論文がなく、新人賞、佳作とも、該当論文なしということに決定しました。全体および各分野の選評は『英文学研究』和文号第101巻に掲載されます。

◎優秀論文賞について

この賞は『英文学研究』（和文号、英文号）に掲載される論文の中から、特に優れた論文に授与されるものです。『英文学研究』第101巻においては、残念ながら「該当論文なし」となりました。

◎各種規程の変更について

昨年度より論文投稿規程および新人賞規程の文言を一部修正しました。主な変更は下記の4点です。

- ① カバーレターに記載すべき項目に、大学入学以降の学歴を追加しました。
- ② 日本語論文投稿規程(4)[3]および新人賞規程(5)[3]にて、註は、ワープロソフトの註作成機能を使わずに本文と同じ書式で作成し、原稿の末尾にまとめてつける旨を明示しました。
- ③ 英語論文投稿規程(4)[2]および英語版新人賞規程5[2]において、書式の細部については *The MLA Handbook* などの標準的なスタイルマニュアルの最新版に従う旨をより明確にしました。
- ④ 英語論文投稿規程および英語版新人賞規程における表記の揺れを統一しました。今後論文を投稿・応募される方は、ご注意くださいますようお願い申し上げます。詳細は、昨年12月

刊行の和文号（第100巻）以降に記載の投稿規程、新人賞規程をご確認ください。

◎郵送による新人賞応募論文の受付廃止について

2024年度より郵送による新人賞応募論文の受付を廃止し、提出方法を電子メールでの送信のみとしています（この変更に伴い、第47回以降の新人賞規程の文言を改訂しました）。なお、投稿論文については従来通り郵送による提出も可能です。

事務局からのお願い・ご報告

◎支部大会資料統合版の刊行停止について

支部大会資料統合版は引き続きウェブ掲載のみとなります。支部大会の開催日程、プログラム等については、本部および各支部のHPでご確認ください。

◎本部支部HPのhttps化について

現在、Google や Microsoft 等の https フェースト強化により、いくつかの支部のHP閲覧に支障をきたすケースが発生しております。本部HP等でお知らせしております通り、対象のウェブサイトをクリック後、ブラウザに表示されているURLのhttpsのsを削除し、Enterキーを押すことで問題が解消されることがあります。また可能であればFirefoxやSafari等、別のブラウザでの閲覧を試みていただきますようお願いいたします。会員の皆様にはご迷惑をおかけしており申し訳ありません。本部支部ともに目下対応を急いでおり、すでにいくつかの支部では問題が解消されております。今後も鋭意対応してまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

◎今年度の大会について

2024年5月4日(土)・5日(日)に東北大学川内北キャンパスにて、今年度の大会が対面形式で実施されました。12のシンポジウム、ワークショップ、特別講演、41の研究発表、8つの招待発表が行われました。

(おそらく)史上はじめてのGW開催となりましたが、発表者、登壇者の皆様が事前に十全にご準備くださり、充実したご発表をしてくださいました。また当日は素晴らしい天候にも恵まれ、新緑の杜の都に多くの会員の皆様のご参加くださいました。シンポジウム講師・研究発表者の皆様、およびご参加くださった皆様に、厚く御礼申し上げます。

一方、従来にない時期の開催ということで、運営側に不慣れな点も多く、ご不便をおかけした点も、ご不満の点もあったかと存じます。今回の運営上の反省点やアンケートでいただいたご意見は今後活かしてまいりますので、さらなるご提言などありましたら、事務局(ejimu@elsj.org)までお寄せください。

また、準備段階からいつも以上にご尽力をいただいた2023年度の大会準備委員会の皆様にも、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。加えて、数多くの優れた発表応募があったことに鑑み、迅速に増室その他の措置を取ってくださり、あらゆることに細やかな配慮をもって大会を成功に導いてくださった開催校・開催支部の委員の皆様にも、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

◎来年度の大会について

すでに学会HPおよびメーリングリストでもお知らせしておりますように、来年の第97回大会は2025年5月24日(土)・25日(日)の両日に、東京大学本郷キャンパスにおいて開催

されます(日程は予定)。開催校をお引き受けくださった東京大学の皆様に、心より御礼申し上げます。

来年度の大会は対面で開催されます。全国大会に関する最新情報は、学会HP(<https://www.elsj.org/>)に掲載されますので、定期的にご確認くださいようお願いいたします。

なお、懇親会につきましても現在開催の方向で検討しております。こちらも決定次第学会HPにてお知らせいたします。

◎全国大会期間中における託児所の開設について

開催校のご尽力により、全国大会期間中に託児業者に委託する形で、託児所が開設される予定です。詳細や申し込み方法等は、決まり次第学会HP上で告知いたします。

◎メーリングリストによる学会情報の配信について

現在、学会活動に関する情報は随時メーリングリストを通じて会員の皆様に一斉配信しています。メールアドレスのご登録がお済みでない方や変更のある方は、学会HPのお問い合わせページ(<https://www.elsj.org/inquiry/>)より手続きをお願いいたします。なお、学会活動に関する情報はこれまで通り学会HPにも掲載いたします。

◎会費納入と刊行物発送について

日本英文学会の2024年度会費は、例年通り、一般会員8,000円(本部会費7,000円+支部会費1,000円、ただし複数支部に加入の場合は1支部ごとに1,000円追加)、学生会員5,000円(本部会費4,000円+支部会費は一般会員に同じ)、協賛会員10,000円です。退会届が出されない限り、会費の納入が滞っても、2年間は引

き続き刊行物をお送りいたします。2年度分の会費振込用紙が同封されている方々は、会費滞納が2年目になっています。今年度中に2年度分の会費の納入がなかった場合は、2025年3月末をもって会員資格を失うこととなります。資格を失ったのちも、未納分の会費については支払い義務があり、その分をお支払いいただかない限り再入会できませんので、ご注意ください。

ご自身の会費納入状況が不確かな場合には、HPの「お問い合わせ」(<https://www.elsj.org/inquiry/>)にありますフォームにて事務局までご連絡ください。重複して会費を支払われますと、払い戻しなどに余分な手数料がかかってしまいますのでご注意ください。

会費の納入忘れを避けるためにも、「郵便局自動払込みによる会費引き落とし」のご利用を強くお勧めしております。ゆうちょ銀行に口座をお持ちでしたら、事務局からお送りする書類に記入してご返送いただくだけで、簡単に利用できます。領収書もご請求があれば学会より発行いたします。利用ご希望の方は、HPの上記お問い合わせフォーム(<https://www.elsj.org/inquiry/>)よりご連絡ください。

なお、66歳以上の会員を対象とした終身会員制度を設けております。詳細につきましては、学会HP(<https://www.elsj.org/>)の「入会案内」から「終身会員制度ご案内」をご覧ください。また、メールで事務局(ejimu2@elsj.org)までお尋ねください。

◎会員著書案内について

2012年4月より、会員の皆様から事務局宛てにご著書を献本いただいた場合、学会HPに著書紹介を掲載できるようにいたしております。著書は会員独自の研究成果に限り、訳書等

は対象外とさせていただきます。掲載期間は、掲載開始日から2年間です。また、著書案内に掲載された著書については、『英文学研究』編集委員会において書評対象の候補として検討させていただきます。

掲載をご希望の方は、以下の情報を事務局(webmaster@elsj.org)までWORDの添付ファイルにてお寄せください。もし可能でしたら、こちらのテンプレート(<https://www.elsj.org/books/format.html>)の通りをお願いいたします。

1. 著書のタイトル、出版社、出版年
2. 著書の内容の梗概 1,200字程度
3. 目次

この会員著書案内欄には、2024年7月末の時点で39冊が紹介されております。ぜひご覧ください。

◎海外研究者招聘後援事業について

日本英文学会では、2011年6月1日より、日本における英文学研究の国際化促進のために、海外研究者招聘後援事業を実施しています。詳細は学会HP(<https://www.elsj.org/>)の「情報公開」から「海外研究者招聘後援事業規程」をご覧ください。同規程に該当する企画をお持ちの団体による応募を歓迎いたします。どうぞ奮ってご応募くださいますようお願いいたします。応募する団体は申請書類を事務局(ejimu@elsj.org)宛てメールにてお送りください。

◎次回のNewsletterについて

次回のNewsletterは、2025年3月中旬刊行予定の『第97回大会資料』の巻末に掲載される予定です。それまでの間に、大会開催形態を含めてお知らせすべき情報は、随時、学会HPやメーリングリストを通じてお知らせしますの

で、定期的にご確認くださいようお願いいたします。

◎その他

本年5月末をもって、前任の田村斉敏事務局長、津田正会計担当補佐、酒井祐輔大会準備担当書記、馬淵恵里編集担当書記、永嶋友オンライン補佐が退任されました。それぞれのご所属大学での研究教育業務が多忙を極めるなか、日本英文学会の運営にも献身的にご尽力くださり、膨大な業務と数々の困難に、非常に優れた判断力と粘り強さで対処してくださいました。また、2023年12月と2024年3月には、長きにわたって職員として学会事務局を支えてくださった大比良真輝さんと萩原真紀子さんがご退職になりました。この場をお借りして、退任・退職された皆様に心より御礼申し上げます。新事務局は皆様のご貢献に深く感謝しつつ、過去から引き継がれてきたすべてを大切に守っていきたくと考えております。そしてさらなる業務の効率化を目指し、さまざまな新しい試みにも挑戦してまいりたいと存じます。

またこの交代に先立って、4月より新たに秦邦生（事務局長補佐）、広本優佳（会計担当補佐）、中嶋英樹（大会準備担当書記）、加太康孝（編集担当書記）、瀧川宏樹（オンライン補佐）の5名が事務局に入り、昨年度の事務局長補佐から事務局長に異動となりました猪熊恵子とともに、6名の体制で本年度の事務局運営に携わることになりました。事務局長と局長補佐、そして大会準備担当書記の任期は来年5月末まで、それ以外の局員は再来年5月末までとなります。事務職員としては、昨年度より法人契約を結んで業務委託をしております北島山編集室の樋口真理氏、津田正氏に、新たに4月よりアルバイト職員1名を迎え、3名の体制でさまざま

な業務にあたっております。一同力を合わせ、阿部公彦会長のもと、会員の皆様の研究環境がよりよいものとなりますよう努めてまいりたいと存じます。至らぬ点多々あることかと懸念しておりますが、会員の皆様におかれましてはご指導・ご協力のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

日本英文学会事務局

猪熊恵子・秦邦生・広本優佳・中嶋英樹・加太康孝・瀧川宏樹